

## 山中 現 木版画「クロのいた町」 制作過程



木版画「クロのいた町」は、山中現が喜多方で過ごした幼少期に飼っていた犬がモデルになっています。「クロのいた町」は、本展覧展の図録と共に限定30部のオリジナル版画として販売しました。

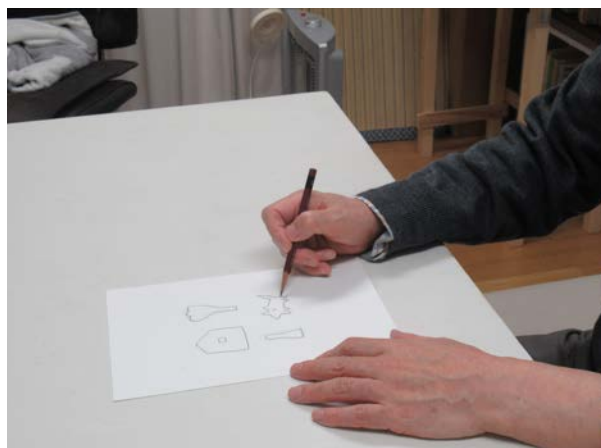
山中現による〈クロのいた町〉の制作過程と、木版画の技法を紹介します。



〈クロのいた町〉2020年 木版・細川紙

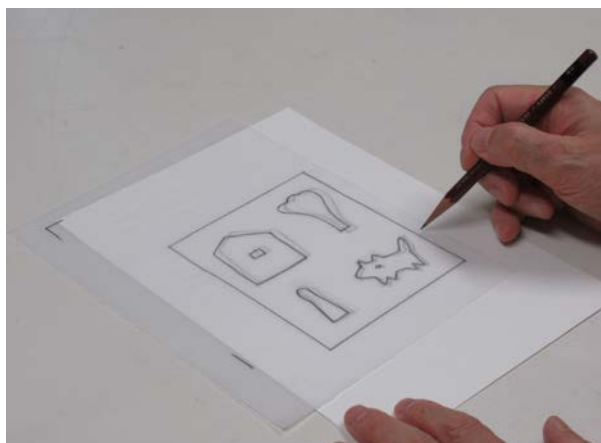
### 1. 下絵

下絵を書く



### 2. 下絵をうつす

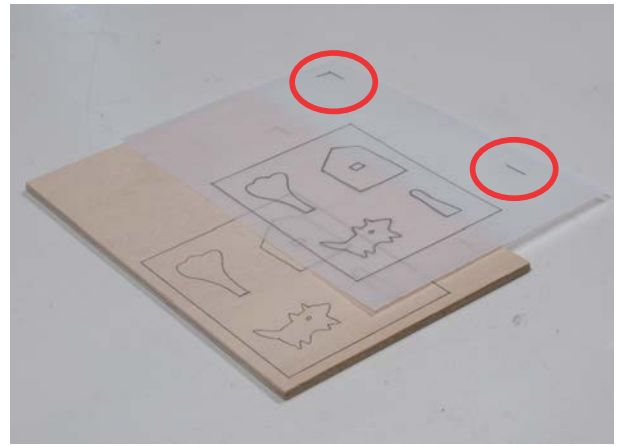
鉛筆を使い下絵をトレーシングペーパーにうつす



### 3. 下絵を版木へ

トレーシングペーパーを裏返して、カーボン紙をはさみ、版木にうつす。  
版木はシナベニア。  
下地の白と、4色の版、2版作ることにする  
この時、見当の印をつけておく。

ひきつけ見当 ー  
かぎ見当 』  
※赤丸で囲った部分



### 4. 彫る

木目にそって彫ると彫りやすい。  
色をブラシでのせる時、周りが汚れない位、  
間をあけて彫る。



### 5. 和紙の準備

和紙（細川紙をドーサ引きしたもの）を水バケで湿らす。  
それを2枚ずつ、湿らせた新聞にはさむ。



### 6. 和紙の準備 2

さらにビニールで包み2～3時間おく。  
和紙が多い時は1日おく。



## 7. 色をつける

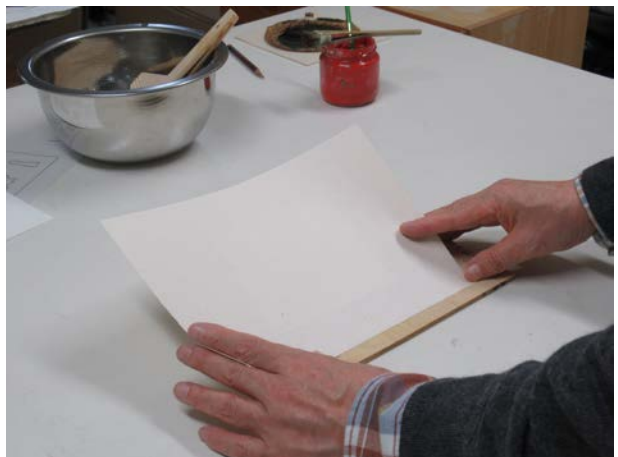
版木を固定し、色をのせ、ブラシで刷り込む様につけていく。

絵具は水彩絵具（のりを混ぜても良い）  
ここでは染色用のブラシを使っている。



## 8. 刷る

版木のかぎ見当、ひきつけ見当の順に和紙の端を合わせ、版木の上に和紙をのせる。



## 9. バレンで刷る

バレンには椿油をつけてすべりやすくする。  
うすいあて紙をおいた上から刷っても良い。



## 10. 下地の白

白の版とそれを刷ったもの



## 11.4 色の版

4色の版とそれを刷ったもの



### 準備物 .

- ・紙（下書き用） ・鉛筆 ・トレーシングペーパー ・カーボン紙
- ・版木2枚（シナベニア） ・彫刻刀 ・水バケ ・新聞紙 ・ビニール袋
- ・和紙（細川紙） ・ドーサ液（にじみドメ） ・水彩絵具 ・のり（大和のり）
- ・染色用のブラシ（筆） ・バレン ・椿油 ・うすいあて紙

### ドーサ引き .

礬水（ばんすい）、ドーサ、礬砂、陶砂とも書く。和紙や板などのにじみ止めに使用される膠水（にかわすい）と明礬（みょうばん）の混合液。ドーサ引きとは、ドーサ液を刷毛で塗布した紙など。

### 細川紙 .

細川紙（ほそかわし）は楮を原料として漉いた和紙。特徴は未漂白で紙色に趣があり、厚さの種類も豊富である。産地は埼玉県小川町や東秩父村など。国の重要無形文化財の指定を受けている。→小川和紙（おがわわし）

喜多方市美術館特別企画展「山中現展 星の記憶」  
山中 現 木版画「クロのいた町」制作過程

文・写真：山中 現  
編集：喜多方市美術館 2021年6月  
無断転載を禁じます。©喜多方市美術館 2021

